

平成30年度行政評価シート【個表】

平成 30 年 7 月 5 日

評価対象事業		評価者	発達支援室長 田中 香織		
こども-34	実施事業	あおぞら園管理運営事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	発達支援室
			<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	子育て	施策の方針	すべての子育て家庭への支援	

1 事業の目的

2 平成29年度に実施した事業の概要

対象	発達に特別な支援を必要とする児童	・発達に特別な支援を必要とする児童に対し、保護者と情報交換しながら日々児童指導員、保育士等が集団生活や遊びを通して基本的な生活習慣や社会性の発達を援助した。 ・あおぞら園の管理及び通園バスの運行に係る経費を執行した。
意図	児童発達支援センターにおいて、日常生活における基本動作の指導、自立自活に必要な知識技能の付与又は集団生活への適応のための訓練を提供するため。	
効果	発達に特別な支援を必要とする児童が住みなれた地域社会の中で、普通に暮らしていけるようにするため、自立に必要な能力の育成を図り、社会への適応性を身につけていくこと。	

3 事業費等基礎データ

データ区分	28年度決算		29年度決算		30年度当初予算		備考
	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数	
人口等のデータ	176,869人	80,928世帯	176,466人	81,150世帯	176,308人	81,763世帯	・各年3月31日(住民基本台帳)
	事業の対象者数	4,785人	3,695人	事業の対象者数	5,108人		
運営資源状況	決算値(千円)	52,766	60,337	当初予算(千円)	78,218		
	国県支出金			国県支出金	10		
	地方債			地方債			
	その他	52,766	49,018	その他	54,204		
	一般財源	0	11,319	一般財源	24,004		
	人員配置数	16.0	15.8	人員配置数	15.8		
	人件費(千円)	122,641	123,426	人件費(千円)	122,531		
事業経費運営	総事業費(千円)	175,407	183,763	総事業費(千円)	200,749		
	市民1人当りの経費(円)	992	1041	市民1人当りの経費(円)	1,139		
	対象者1人当りの経費(円)	36,658	49,733	対象者1人当りの経費(円)	39,301		

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効率性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥当性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	2. 増大している
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きいのか	3. 廃止・休止による影響は大きくある
有効性	事業の成果は得られているか	3. 十分な成果が出ている
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きいのか	4. 事業の方向性や手法も適切であり、大きく貢献している
公平性	受益者負担は公正・公平か	○-負担導入済 ○-2. 適正な受益者負担を導入している
	協働	○-1. 既に市民等と協働して事業を実施しているが、協働のあり方等の見直しが必要である
事業内容の方向性	見直し類の理由	○. 協働実施済
	見直し類の理由	協働実施済の場合のパートナー 鎌倉女子大学
事業内容の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す → <input type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする <input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する <input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する →	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> その他
	事業内容・予算規模の方向性	事業内容は現状通り及び予算規模は現状維持とするが、市内に複数の民間児童発達支援事業所が設立されている現状をふまえ、鎌倉市における障害児支援の拠点施設として、各民間事業所との連携をより一層図っていくとともに、専門的な立場からの助言や障害児支援に関する情報提供などを積極的に行っていく。
総評(評価に対する考え方、根拠等)	事業内容は現状通り及び予算規模は現状維持とするが、市内に複数の民間児童発達支援事業所が設立されている現状をふまえ、鎌倉市における障害児支援の拠点施設として、各民間事業所との連携をより一層図っていくとともに、専門的な立場からの助言や障害児支援に関する情報提供などを積極的に行っていく。また、事業内容の充実や効率的な事業運営の視点を踏まえ、市民等との協働による事業の展開を図っていく必要がある。	

<p>平成29年度事業実施にあたっての課題(前年度未解決の事項を含む)</p>	<p>児童発達支援センターあおぞら園は、障害児支援の拠点施設として、専門性をより一層高めていくとともに、民間の児童発達支援事業所との連携や情報共有の強化を図り、市全体としての障害児支援のスキルアップに今後も継続的に取り組んでいく。また、事業内容の充実や効率的な事業運営の視点を踏まえ、市民等との協働による実施に向けた検討も引き続き行っていく。 保育所等訪問支援事業については、今後利用児童の増加が見込まれる場合、配置職員の増員等の検討が必要となる。 施設管理の側面では、施設建築後38年を経過し、建物全体の老朽化が進んでいる。そのため、利用者の安全が図られるよう公共施設の再編計画の方針を踏まえつつ、修繕計画を策定し、大規模修繕を含む修繕を計画的に実施し、適正な維持管理を進めていく必要がある。</p>	
<p>課題解決のために行った平成29年度の取組</p>	<p>児童発達支援センターあおぞら園では、障害児支援の拠点施設として、専門性向上を目的とした人材育成のための職員研修プログラムや他事業所からの研修生の受入れを行い、市内民間児童発達支援事業所との連携や情報共有については、障害福祉課と連携して行ってきた。市民等との協働事業については、引き続き鎌倉女子大の飯村敦子教授をスーパーバイザーとして、ムーブメントプログラムを元にした活動への助言、同大学生徒のボランティア参加等の取り組みを継続している。一方、県内同様施設の多くが運営形態を指定管理に移行している状況を踏まえ、あおぞら園の運営についても市の障害児支援の全体的な方向性及びサービスの充実を見据えた検討が必要となっている。保育所等訪問支援事業については、利用児童数の変動はないが、国が示すサービス拡充の方向性を踏まえ、対象児童の拡大について、今後検討が必要である。また、施設管理の側面では、ふるさと寄付金を活用して、玄関のオートロック化、防犯カメラ及びモニター設置、各居室建具の修繕等を行い、セキュリティ強化を図った。また、老朽化していた屋外受水槽の取替え修繕も実施した。</p>	<p><input type="checkbox"/> 解決</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 一部解決</p> <p><input type="checkbox"/> 未解決</p>
<p>未解決の課題、新たな課題とその理由</p>	<p>児童発達支援センターあおぞら園は、障害児支援の拠点施設として、専門性をより一層高めていくとともに、民間の児童発達支援事業所との連携や情報共有の更なる強化を図り、市全体としての障害児支援のスキルアップに今後も継続的に取り組んでいく。また、事業内容の充実や効率的な事業運営の視点を踏まえ、市民等との協働による実施に向けた検討も引き続き行っていく。一方、県内同様施設の多くが運営形態を指定管理に移行している状況を踏まえ、今後に向けた鎌倉市の障害児支援の全体的な方向性の中で、サービスの充実を前提としたあおぞら園の委託化について、具体的なスケジュールを策定して進めていくこととしている。 保育所等訪問支援事業については、対象児童の範囲を検証し、今後利用児童の増加が見込まれる場合、配置職員の増員等の検討を行う。 施設管理の側面では、引き続きふるさと寄付金を活用して、昨年度実施できなかった屋上防水工事を予定している。</p>	

◎ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

<p>比較事項</p>	<p>公設直営の児童発達支援センター</p>								
<p>団体名</p>									
<p>他市実績</p>	<p>鎌倉市</p>	<p>相模原市</p>	<p>綾瀬市</p>	<p>愛川町</p>					
	<p>○</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	<p>○</p>					
<p>当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方</p>	<p>政令市を除く県内の市町村のうち、児童発達支援センターを直営で運営しているのは鎌倉市を含め3市1町である。他市状況の検証を踏まえ、鎌倉市においても指定管理者制度への移行を含めた運営のあり方について見直していく。</p>								

◎ 事業実施に係る指標

<p>指標の内容</p>	<p>延べ利用件数</p>					<p>単位</p>	<p>人</p>	<p>指標の傾向</p>	<p>↘</p>	<p>備考</p>
<p>当該指標を設定した理由 利用者のニーズを把握するため。</p>	<p>年次</p>	<p>H26</p>	<p>H27</p>	<p>H28</p>	<p>H29</p>	<p>H30</p>	<p>H31</p>	<p>・開園日数 (H29年度・226日、H28年度・224日、H27年度・223日、H26年度・230日)</p>		
	<p>目標値</p>	<p>6,270</p>	<p>6,210</p>	<p>6,153</p>	<p>5,661</p>	<p>5,108</p>				
	<p>実績値</p>	<p>6,272</p>	<p>5,680</p>	<p>4,785</p>	<p>3,695</p>					
<p>達成率</p>	<p>100.0%</p>	<p>91.5%</p>	<p>77.8%</p>	<p>65.3%</p>						
<p>当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方</p>	<p>指標である、延べ利用件数の実績値については、減少傾向にあるが市内に複数の民間児童発達支援事業所が設立されている現状をふまえ、鎌倉市における障害児支援の拠点施設として、各民間事業所との連携をより一層図っていくとともに、専門的な立場からの助言や障害児支援に関する情報提供などを積極的に行っていく。</p>									